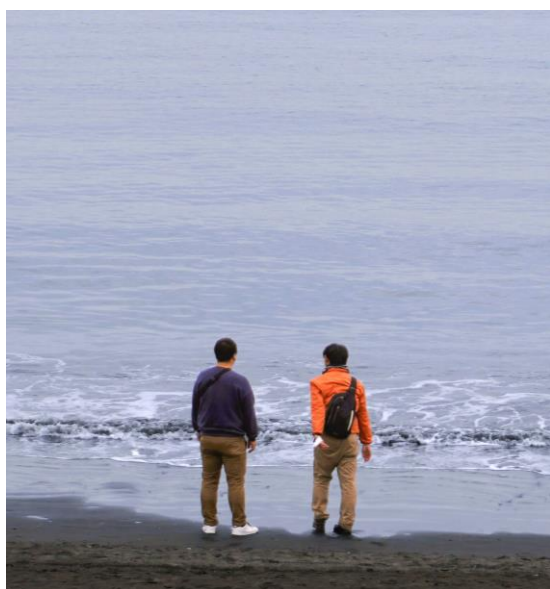


SSKO
われら
同胞
No. 70

☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 1p 表紙 さつき旅行
- 2p 新年のご挨拶
- 3p GH利用者 ピア活動紹介
- 4p プラッツ文化祭報告
- 5p さつき旅行報告&新職員紹介
- 6p 賛助会コーナー



さつき 鎌倉旅行



謹賀新年

あけましておめでとうございます。令和七年の新年を迎えるにあたり、はらからの家福祉会を代表して皆さまに心よりのご挨拶を申し上げます。

日頃より当会の諸事業に対するご理解、ご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は『はらからWay』を道しるべとしながら、地域に根ざした支援の在り方を模索してまいりました。グループホーム「ピア国分寺式番館」の開設や東京都精神障害者地域移行促進事業を再受託など、取り組みを広げることができましたのも、ひとえに皆さまのお力添えのおかげと深く感謝申し上げます。

さつき共同作業所では、陶芸作品の制作や受託作業等を通じて、利用者の皆さまそれぞれの可能性を大切に育んでいます。日々の作業で培われる地道な努力が、かけがえのない歩みとなっていることを実感する日々です。

巳年は「物事が螺旋状に発展する年」とされています。人工知能やデジタル技術が私たちの暮らしに浸透していく中で、福祉の現場でも様々な変化が訪れることでしょう。しかし、そうした変化の中にあっても、「一人ひとりの声に耳を傾けること」「共に歩むこと」という私たちの原点を大切にしながら、少しずつでも支援の質を高めていければと願っています。

私たちに求められているのは、時代の変化に振り回されることなく、また閉ざすことなく、利用者の皆さまにとって何が必要なのかを、謙虚に探り続けていくことなのかもしれません。各

事業所での日々の実践を通じて、そうした問いかけを続けていきたいと思えます。

本年も至らぬ点が多々あるかと存じますが、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

末筆となりますが、本年が皆さまにとって穏やかで実りある一年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和七年 元旦

社会福祉法人はらからの家福祉会

理事長 藤田英親



さつき共同作業所

日帰り旅行に行ってきました！



今回のわれら同胞の表紙も飾りましたが、私たちさつき共同作業所は11月15日（金）、日帰り旅行に行ってきました！

新型コロナウイルスの影響で中止していた日帰り旅行ですが、この度、実に5年ぶりの実施。マイクロバスをチャーターして、メンバー・スタッフ総勢28名が参加しました。行き先は、秋の鎌倉方面。高徳院の鎌倉大仏、新江ノ島水族館、昼食は鎌倉プリンスホテルにて。当日は曇り空でしたが、雨に降られることもなく、予定通りに巡ることができました。

最初に訪れた鎌倉大仏では、大仏の中に入ることができる胎内拝観という貴重な体験をしました。

そのあと、鎌倉プリンスホテルでコース料理を堪能。普段ではなかなか味わえない贅沢な食事と空間に、感動の声があがっていました。

最後は新江ノ島水族館。ここでは自由時間として、各々ゆつくりと好きなところを見てまわりました。イルカショーを観て手をたたいたり、クラゲを見て癒されたり、たくさんの魚が泳ぐ水槽の前でぼーっとしたり、クレーンゲームでぬいぐるみをゲットしたり。また水族館を出た先には浜辺があり、皆でゆつくりと海を眺める時間もありました。

補足ではありますが、観光にも劣らず楽しい時間となったのが移動中のバス内。カラオケ大会やクイズゲームが繰り広げられて大いに盛り上がりました。

何よりも、大きな怪我や体調不良もなく、参加した全員が無事に帰って来ることができました。

皆からは「楽しかった」「鎌倉に初めて来れてよかった」「イルカたちがすごかった」「海辺が素敵だった」「子どもの頃に見た大仏が大人になって見ると思っていたより小さかった」「さつきでコース料理を食べられる日が来るなんて…」という声がありました。

これからも皆でいろんなところへ行きたいな。



新人紹介 ～今年度も同胞が増えました！～

八月からさつき共同作業所で非常勤職員として勤務しております、関川 桃子（せきかわ ももこ）と申します。よろしくお願いいたします。

主に内職のお手伝いやPC作業、オンラインストレッチの準備の他、最近では訪問での生活支援にも携わっています。まだまだ不慣れなことも多いのですが、職員の皆さんが丁寧に教えてくださり、メンバーの皆さんも温かく接して下さるおかげで、安心して働けています。

家族は中学一年生の娘と小学三年生の息子がいます。特に下の子は全く言うことを聞いてくれない子で、激しいバトルの毎日でしたが、今は大分落ち着いてきてホッとしているところです。長年専業主婦をしていたこともあり、社会経験が少ないのがコンプレックスですが、その分働くことの新鮮さと楽しさを実感しています。

先日は、さつきの日帰り旅行にも参加させていただきました。根っからのインドア派でこういった行事もあまり参加したことがなく、内心不安でしたが、全くの杞憂でした。始終楽しく、特に湘南の美しい海と空を皆さんと眺めた時間は心に深く残っています。これからは苦手だと避けてきたことにも色々と挑戦していきたいです。

メンバーの皆さんは、作業所でそれぞれご自分のペースで過ごされていますが、お互いに労りあい、緩やかな連帯感があつて、素敵だなと思います。さつきのこの穏やかで温かい雰囲気にも、私も日々癒され元気をもらっています。

これからもメンバーの皆さんが安心して、働き、寛げる場所を支えられるよう、私もできることを頑張っていきたいと思っております。未熟な点や失敗もあるかと思いますが、温かく見守っていただけたら幸いです。



さつき共同作業所 関川 桃子

楽しく生きて生きたい 幸せに生きたい ~NEVER GIVE UP!~

N・Gさん（ペンネーム：NEVER GIVE UP）は、当グループホームに入居され、一年半が経っています。二十歳から約四十年間引きこもり、苦しい思いの中、誰にも心を語れず、お一人で戦ってきました。いつも笑顔でそばにいてくれたお母様がいなくなつてからは、長期入院となつてしまいました。人生一回でも単身生活してみたいという思いで、グループホームに入居となり、青春時代を取り戻すために一歩一歩歩んでいます。いまだに涙が出て苦しい時もありますが、その思いを大切にしながら、詩と絵をかきはじめています。最近では、自分の体験が少しでも誰かの役に立ちたいという思いで、病院に出向いて入院患者さんと交流をはじめています。先日、病棟で体験談の発表をされましたので、そのインタビューの一部をご紹介します。

Q. 入院中、退院を考えたことはありましたか？

A. 入院中は、入院のことで精一杯でしたね。（入院当時の）記憶がありません。退院を考えたことはなかったですね。

Q. 退院を考えるきっかけはありましたか？

A. 自分を見つめたら、入院してから一年半が経っていました。そこで、先生に「退院したい」と言ったら退院の許可が下りて、グループホームの体験をすることになりました。体験中のことも覚えていないのですが、火事場の馬鹿力でやってきました。どこをどう乗り越えてきたか覚えていません。

Q. グループホームに入居する決め手は？

A. 担当の方がとても良い方だったからです。一緒に買い物に行ってくれて助かっています。私は体の病気もしているので。あと、グループホームの土地柄も、とても気に入りました。

Q. グループホームはどういうところですか？

A. グループホームというのは、私がいるのは、ワンルームで、担当の方がいろいろお世話をしてくれます。精神的に安定しました。私は、肉体的な病気もあるので、担当の方がいろいろな病院と一緒に付きそつてくれます。安心できます。また、部屋の掃除なども手伝ってくれます。

Q. 退院後の生活はどのように変わりましたか？

A. グループホームにいる友達ができたことです。あと、ほんの少しの勇氣

で行動力を持つことができるようになりました。本音を言えば、苦しい時もあります。

Q. 退院後、お気持ちはどう変わりましたか？

A. 自由になれました。何度でも立ち上がる気になれましたね。

Q. 地域での生活を助けてくれているのは、どんな人達ですか？

A. 病院をはじめ、計画相談、グループホーム、訪問看護、デイケアなどです。よくしてくれています。安心します。

Q. 退院して楽しかったことや良かったことは何ですか？

A. グループホームに入って、同じ病気のある人と、一緒に食事をしたことです。担当の方に後押しをしてもらつて、自信を持つことができました。何事も何とかなる、と思つています。

Q. 最後に、病棟の皆さんにお伝えしたいことはありますか？

A. 入院した時に、「人生が終わつた」と思つたけど、今では人生何度でもやり直しができると思えるようになりました。私は今年六十一歳になります。それでも、何度でもやり直しがきくと思つていますから、大丈夫です。心配ありませんよ。（ピア体験談発表一部抜粋）

N・Gさんは、入院患者さんから「また来てくださいね」と言われたように、それが嬉しくて忘れられないそうです。**N・Gさん**は、来月も他の患者さんとお会いするのを楽しみにしています。

ライフ

命には限りがある

どれだけのことのできるだろうか

苦しくても一日はすぎる

楽しくても1日はすぎる

今を力の限り生きて行きたい

楽しく生きて生きたい

幸せに生きたい



みかん（甘酸っぱい思い出）

第3回 / プラッツ文化祭 報告

10月23日にプラッツ文化祭を開催いたしました。コロナ禍で人との交流が制限されていた頃、『プラッツを利用されている方のさまざまな表現作品を共有・発表する場を作りたい』と始めた文化祭も、早3回目を迎えることとなりました。

当日は、小雨の降る天候の中、40人近くの方にご来場いただきました。プラッツのメンバーを中心に法人内の他事業所を利用されている方や関係機関の方などの参加・来場もあり、平日にも関わらず賑わいのある一日となりました。

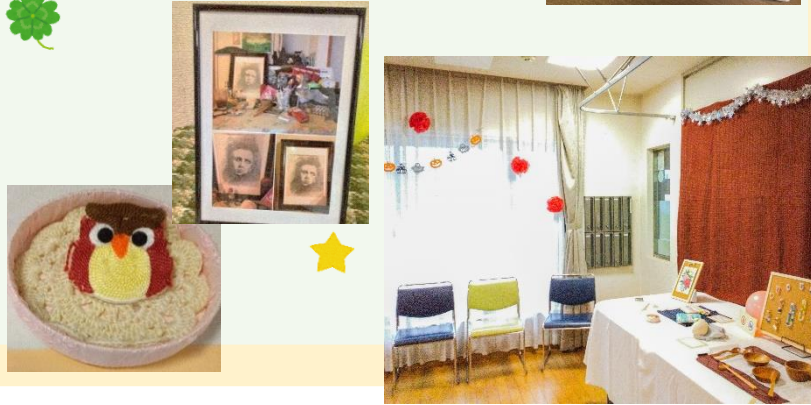
交流室内は、いつもと違う配置や装飾の空間に、絵画や映像、小物作品などでいっぱいになりました。一点一点心を込めて仕上げられた作品に「いつもと雰囲気違って広々感じるね」「みんな素晴らしい才能持ってるとだね」「どうやって描いたんですか」「感動した」「とても良かった」など、いつも以上に会話に花が咲いたり、じっくり鑑賞されたりしていました。

パフォーマンスでは、チェロ演奏、朗読、紙芝居が披露されました。皆さん堂々と真剣な表情で披露され、大きな拍手が沸き起こると同時に笑顔に満ち溢れていました。

また、用意したノートに感想やコメントを書いたり、恒例のキーボードを自由に演奏したり、思い思いに楽しい時間を過ごしたり、まさに非日常の時間といった様子でした。

開催までの準備に携わってくださった皆さん、作品の発表やパフォーマンスをしてくださった皆さん、当日ご来場いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

地域生活支援センタープラッツ一同



はらからの家福社会賛助会コーナー

はらからの家福社会賛助会は、社会福祉法人はらからの家福社会の運営の維持・発展のために支援・協力することを目的として、主に財政的支援・協力の活動を行っています。

当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。会費は年間1口2千円からで何口でも可能です。会員の皆様には「われら同胞（本誌）」を年3回郵送し、活動報告及び会計報告を行っています。

皆様からいただいた会費は、毎年取りまとめてはらからの家福社会に寄付していただき、その一部はピアサポート活動参加メンバーへの活動謝礼金として使わせていただいております。はらからの家福社会では、地域移行促進のためピアサポーターの皆さんと協働し、病院が実施するプログラムへの参加や地域との情報交流を定期的に行っております。

郵便振替口座番号

00180-8-130179

加入者名：はらからの家福社会賛助会

会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいております。匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。

<令和6年4月から令和6年8月の間に会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

服部 道枝 村上 まどか 伊藤 順一郎 坂田 晴弘 濱田 誠士 野々瀬 悟子
服部 森彦 高見 法孝 武蔵野はらっぱ祭り実行委員会 匿名3名

会員の皆様、本当にありがとうございます。今後ともなにとぞ宜しくお願いいたします。

ご寄付の御礼：東京ロータリークラブ様 どうもありがとうございました。

【編集後記】

明けましておめでとうございます。

毎年、この一年が良い一年でありますように！
と思っておりますが、今年はどうなるのでしょうか。皆様の一年が健やかで穏やかでありますように。

私たち、はらからの家福社会の活動が皆様の一助となれば幸いです。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

われら同胞編集委員 一同

はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】

社会福祉法人はらからの家福社会
〒185-0021
東京都国分寺市南町 3-4-4
TEL 042-323-5637

【発行人】

障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072
東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定価】¥120

